

科目区分	専門基礎分野	授業科目	病理学
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(30時間)	開講年次	1年次
目的: 病気の成り立ちや人体に起こる病的な現象を理解できる。 目標: 1 疾病を引き起こす内因・外因を理解できる。 2 臓器、組織、細胞等が起こる構造と機能の変化を理解できる。			
授業計画			
単元	時間	内容	
1 病理像	29	1 病理学とは 2 疾病の様々な原因 1) 疾病を引き起こす内的要因 2) 疾病を引き起こす外的要因 3) 公害病と医原病 3 病理診断(組織診・細胞診)、病理解剖の概要 4 先天異常と遺伝子異常 1) 遺伝子異常 2) 染色体異常 5 代謝障害 1) 細胞の障害と適応 (1) 萎縮 (2) 肥大と過形成 (3) 化生 (4) 壊死とアトピーシス (5) 変性 2) 物質沈着 3) 脂質代謝障害 4) タンパク質代謝障害 5) 糖質代謝障害 6) その他の代謝障害 6 循環障害 1) 循環器系の概要 2) 局所性の循環障害 3) 全身性の循環障害 4) リンパの循環障害 7 炎症と免疫、膠原病 1) 炎症 2) 免疫 3) アレルギーと自己免疫疾患、膠原病 4) 移植と主要組織結合複合体 8 感染症 1) 病原体と感染症 2) 宿主の防衛機制 3) 主な病原体と感染症 9 腫瘍 1) 腫瘍の定義と分類 2) 腫瘍の発生病理 3) 悪性腫瘍の転移と進行度 10 老化と死 1) 加齢に伴う諸臓器の変化	

		2) 個体の死
	1	試験
評価方法		筆記試験
テキスト		医学書院 疾病の成り立ちと回復の促進[1] 病理学
参考資料		
履修上の 留意事項		予習・復習をして授業に臨むこと。
備考		

科目区分	専門基礎分野	授業科目	治療論
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(30時間)	開講年次	1年次
目的: 疾病に対する診断と治療についての基礎的知識を習得する。 目標: 1 異常状態を判断するための診断過程を理解できる。 2 治療法の種類と治療における生体の反応について理解できる。			
授業計画			
単元	時間	内容	
1 治療法の概要	2	1 疾病の診断の基礎 1) 診断過程 2 疾病の治療 1) 治療法の種類と概要(生体の反応を含む) (1) 薬物療法 (2) 食事療法 (3) 運動療法 (4) リハビリテーション療法 (5) 臓器移植 (6) 輸液療法・輸血	
2 麻酔法	8	1 麻酔法の基礎 2 全身麻酔と生体反応 1) 全身麻酔の深度 2) 吸入麻酔 3) 静脈麻酔 4) バランス麻酔 5) 全身麻酔中・麻酔後の合併症 3 局所麻酔と生体反応 1) 浸潤麻酔 2) 表面麻酔 3) 脊椎くも膜下腔麻酔(腰椎麻酔) 4) 硬膜外麻酔 5) 伝達麻酔	
3 手術療法	6	1 外科的治療と適応 1) 手術療法とは 2) 手術療法 2 手術侵襲に対する生体反応とその機序 1) 手術侵襲とは 2) 術後の生体反応の推移 3 手術経過とその管理 1) 術前・術中・術後の管理 (術後合併症の発生要因・予防・治療を含む) (1) 循環管理 (2) 呼吸器管理 (3) 消化器管理 (4) 術後感染症	
4 がん薬物療法(化学療法)	6	1 がん薬物療法(化学療法)の基礎 (1) がん薬物療法(化学療法)の原理と作用機序 ア 細胞障害性抗がん薬   イ 分子標的薬 2 がん薬物療法(化学療法)による副反応(有害事象)と合併症 3 がん薬物療法(化学療法)の標準治療計画(レジメン) 4 抗がん薬を取り扱う者の曝露対策	

5 放射線療法	7	1 放射線の種類と特徴 2 放射線診断 1) X線診断 2) 血管造影 3) MRI(磁気共鳴画像診断) 4) RI(ラジオアイソトープ) 5) PET(ポジトロン断層法) 3 放射線療法の適応と流れ 4 単独療法と集学的治療 5 内照射と外照射 6 有害事象への対策 1) 放射線による障害と防護 2) 放射線療法に伴う反応と障害
	1	試験
評価方法		筆記試験
テキスト		メヂカルフレンド社 治療論概説 医学書院 基礎看護学〔4〕臨床看護総論 医学書院 臨床外科看護総論 医学書院 臨床放射線医学
参考資料		
履修上の留意事項		予習・復習をして授業に臨むこと。
備考		

科目区分	専門基礎分野	授業科目	疾病治療論 I
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(30時間)	開講年次	1年次
<p>目的: 呼吸器、循環器、血液・造血器における疾患の病態生理、診断・治療の概要と、それらの生体への影響を理解できる。</p> <p>目標: 1 呼吸器疾患に伴う症状・検査・治療が生体に及ぼす影響を理解できる。  2 循環器疾患に伴う症状・検査・治療が生体に及ぼす影響を理解できる。  3 血液・造血器疾患に伴う症状・検査・治療が生体に及ぼす影響を理解できる。</p>			
授業計画			
単元	時間	内容	
1 呼吸器疾患の病態と検査・治療	10	1 主要症状と病態生理 1) 自覚症状 (喀痰・血痰・咯血・咳嗽・喘鳴・嘔声・呼吸困難) 2) 他覚症状 (チアノーゼ・ばち指) 2 呼吸器疾患の病態生理、症状、診断・治療 1) インフルエンザ 2) 肺炎 3) 結核 (1) 結核の院内感染対策と予防 4) 間質性肺炎・サルコイドーシス 5) 気管支喘息 6) 気管支拡張症 7) 慢性閉塞性肺疾患(COPD) 8) 肺循環異常: 肺血栓塞栓症・肺水腫 9) 呼吸不全 10) 過換気症候群 11) 睡眠時無呼吸症候群 12) 胸膜炎 13) 肺腫瘍(癌・中皮腫) 14) 気胸	
2 循環器疾患の病態と検査・治療	10	1 主要症状と病態生理 1) 胸痛 2) 動悸 3) 呼吸困難(NYHA 分類) 4) 浮腫 5) めまい・失神 6) ショック 2 循環器疾患の病態生理、症状、診断・治療 1) 血圧異常 2) 動脈硬化症 3) 不整脈 (1) ペースメーカー (2) 埋め込み式除細動器 4) 虚血性心疾患 (1) 経皮的冠状動脈インターベンション・冠動脈バイパス術 5) 急性冠症候群 (1) 血栓溶解療法・血栓除去法 (2) リハビリテーション 6) 心不全 7) 弁膜症 8) 心膜炎(心タンポナーデ) 9) 心筋症 10) 閉塞性動脈硬化症 11) 大動脈瘤・大動脈解離	

		12) 静脈瘤・静脈血栓症
3 血液・造血器疾患の病態と検査・治療	9	1 主要症状と病態生理 1) 貧血 2) 白血球増加・減少症 3) リンパ節腫脹・脾腫 4) 出血傾向 2 検査 1) 血液検査 2) 骨髄穿刺・生検 3) 染色体・遺伝子検査 3 赤血球系の異常(貧血) 1) 病態生理 2) 症状 3) 診断・治療 4 白血球系の異常(白血球減少症) 1) 病態生理 2) 症状 3) 診断・治療 5 造血器腫瘍(白血病・骨髄異形成症候群・悪性リンパ腫・多発性骨髄腫) 1) 病態生理 2) 症状 3) 診断・治療(手術、化学療法、放射線療法、造血幹細胞移植)
	1	試験
評価方法		筆記試験
テキスト		医学書院 成人看護学〔2〕呼吸器 医学書院 成人看護学〔3〕循環器 医学書院 成人看護学〔4〕血液・造血器
参考資料		
履修上の留意事項		予習・復習をして授業に臨むこと。
備考		

科目区分	専門基礎分野	授業科目	疾病治療論Ⅱ
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(30時間)	開講年次	1年次
<p>目的: 消化器、腎泌尿器、代謝・内分泌における疾患の病態とその医学的診断・治療を理解できる。</p> <p>目標: 1 消化器疾患の原因・症状・経過および治療法を理解できる。</p> <p>2 腎臓・泌尿器疾患の原因・症状・経過および治療法を理解できる。</p> <p>3 代謝・内分泌系の疾患の原因・症状・経過および治療法を理解できる。</p>			
授業計画			
単元	時間	内容	
1 消化器疾患の病態と検査・治療	10	<p>1 主要症状と病態生理</p> <p>1) 嚥下困難</p> <p>2) おくび・胸やけ</p> <p>3) 腹痛(吐血・下血)</p> <p>4) 下痢・便秘・腹部膨満</p> <p>5) 腹水</p> <p>6) 黄疸・意識障害(肝性脳症)</p> <p>2 消化器疾患の病態生理、症状、診断・治療</p> <p>1) 食道癌・胃癌</p> <p>(1) 手術による合併症とその機序</p> <p>2) 胃・十二指腸潰瘍</p> <p>3) 胆石症</p> <p>4) 胆嚢腫瘍</p> <p>5) 肝炎・肝硬変・肝癌・肝不全</p> <p>(1) B型肝炎に対する核酸アナログ療法</p> <p>(2) C型肝炎に対するインターフェロンフリー療法</p> <p>(3) 食道静脈瘤硬化療法</p> <p>6) 膵炎・膵癌</p> <p>(1) ERCP・MRCP・胆道ドレナージ術</p> <p>7) 腸炎(潰瘍性大腸炎・クローン病)</p> <p>8) 腹膜炎・虫垂炎</p> <p>9) イレウス</p> <p>10) 大腸・直腸癌</p>	
2 腎泌尿器系の疾患の病態と検査・治療	10	<p>1 主要な検査</p> <p>1) 尿検査</p> <p>2) 腎機能検査</p> <p>3) 腎生検</p> <p>4) 尿流動能検査</p> <p>5) 内視鏡的検査(膀胱鏡検査)</p> <p>2 腎泌尿器系疾患の病態生理、症状、診断・治療</p> <p>1) 腎不全(急性腎不全・慢性腎不全)</p> <p>(1) 病状・病期の分類および急性増悪因子</p> <p>(2) 食事療法</p> <p>(3) 薬物療法</p> <p>(4) 透析:血液透析・腹膜透析</p> <p>(5) 腎移植</p> <p>2) 慢性腎臓病(CKD)</p> <p>(1) 慢性腎臓病と心血管疾患との関連</p> <p>(2) CKDの重症度分類</p> <p>3) 糸球体腎炎</p> <p>4) ネフローゼ症候群</p>	

		<p>5) 全身性疾患による腎障害</p> <p>(1) 糖尿病性腎症</p> <p>(2) ループス腎炎</p> <p>(3) アミロイド腎症</p> <p>3 尿路・性器の感染症(膀胱炎・尿道炎・診断・前立腺炎)</p> <p>1) 病態生理 2) 症状 3) 治療</p> <p>4 尿路の通過障害と機能障害</p> <p>1) 尿失禁:原因と治療</p> <p>2) 前立腺肥大症:症状・診断・治療</p> <p>5 尿路結石症</p> <p>1) 病態生理 2) 症状 3) 診断・治療</p> <p>6 尿路・性器の腫瘍(腎実質腫瘍・膀胱癌・前立腺癌・精巣腫瘍)</p> <p>1) 病態生理 2) 症状 3) 診断・治療(腫瘍マーカー含む)</p>
3 代謝・内分泌系の疾患の病態と検査・治療	9	<p>1 代謝・内分泌系疾患の病態生理, 症状, 診断・治療</p> <p>1) 視床下部下垂体前葉系疾患(成長ホルモン)</p> <p>2) 視床下部下垂体後葉系疾患(尿崩症)</p> <p>3) 甲状腺疾患(橋本病・バセドウ病)</p> <p>4) 副甲状腺疾患</p> <p>5) 副腎疾患(アルドステロン症・クッシング症候群・褐色細胞腫)</p> <p>6) 糖尿病</p> <p>(1) 糖負荷試験 OGTT</p> <p>7) 脂質異常症</p> <p>8) 肥満症とメタボリックシンドローム</p> <p>(1) 死の四重奏とその関連メカニズム</p> <p>9) 尿酸代謝異常(高尿酸血症・痛風)</p> <p>10) 多発性内分泌腫瘍</p>
	1	試験
評価方法		筆記試験
テキスト		<p>医学書院 成人看護学〔5〕 消化器</p> <p>医学書院 成人看護学〔8〕 腎・泌尿器</p> <p>医学書院 成人看護学〔6〕 内分泌・代謝</p>
参考資料		
履修上の留意事項		
備考		



科目区分	専門基礎分野	授業科目	疾病治療論Ⅲ
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(30時間)	開講年次	2年次
目的: 脳神経系、運動器における疾患の病態とその医学的診断・治療を理解できる。 目標: 1 脳神経系疾患の原因・症状・経過および治療法を理解できる。 2 運動器疾患の原因・症状・経過および治療法を理解できる。			
授業計画			
単元	時間	内容	
1 脳神経系の疾患の病態と検査・治療	15	1 主要症状と病態生理 1) 意識障害 2) 高次脳機能障害 3) 運動機能障害 4) 感覚機能障害 5) 反射性運動の障害 6) 頭蓋内圧亢進と脳ヘルニア 7) 髄膜刺激症状 8) 頭痛 2 脳神経系の疾患の病態生理、症状、診断・治療 1) 脳血管障害(くも膜下出血・脳出血・脳梗塞) 2) 脳腫瘍 3) 頭部外傷 4) 水頭症 5) 筋ジストロフィー 6) 脱髄・変性疾患(多発性硬化症・パーキンソン病・筋委縮性側索硬化症) 7) 感染症(脳炎・髄膜炎) 8) 認知症(アルツハイマー・脳血管性・レビー小体型) 9) ギランバレー症候群 3 二次的に意識障害・神経障害を起こす疾患 4 圧迫性神経障害	
2 運動器系の疾患の病態と検査・治療	14	1 主要症状と病態生理 1) 疼痛 2) 変形 3) 関節拘縮・強直・動揺関節 4) 運動麻痺・感覚障害 5) 異常歩行・跛行 2 運動器系疾患の病態生理、症状、診断・治療 1) 脱臼・捻挫 2) 骨折 (1) 骨折の分類 (2) 転位 (3) 骨折の治癒過程 (4) 上腕骨外科頸部骨折の症状と治療 (5) 上腕骨下端部骨折の症状と治療 (6) 大腿骨頸部骨折の症状と治療・合併症 (7) コンパートメント症候群 3) 骨粗鬆症 4) 脊髄損傷 (1) 原因と予後 (2) 麻痺に基づく分類と症状	

		<p>(3) 合併症</p> <p>3 骨・関節の炎症性疾患の病態生理、症状、診断・治療</p> <p>1) 骨髄炎</p> <p>4 関節の変性疾患の病態生理、症状、診断・治療</p> <p>1) 変形性股関節症</p> <p>2) 変形性膝関節症</p> <p>5 骨腫瘍の病態生理、症状、診断・治療</p> <p>6 腰痛症の病態生理、症状、診断・治療</p> <p>1) 椎間板ヘルニア</p> <p>2) 腰部脊柱管狭窄症</p> <p>7 頸椎後縦靭帯骨化症の病態生理、症状、診断・治療</p> <p>8 廃用症候群の病態生理、症状、診断・治療</p>
	1	試験
評価方法		筆記試験
テキスト		<p>医学書院 成人看護学〔7〕 脳・神経</p> <p>医学書院 成人看護学〔10〕 運動器</p>
参考資料		
履修上の留意事項		予習・復習をして授業に臨むこと。
備考		

科目区分	専門基礎分野	授業科目	疾病治療論Ⅳ
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(15時間)	開講年次	2年次
目的: 免疫系、生殖器系における疾患の病態とその医学的診断・治療を理解できる。 目標: 1 免疫系疾患の原因・症状・経過および治療法を理解できる。 2 生殖器系の疾患の原因・症状・経過および治療法を理解できる。			
授業計画			
単元	時間	内容	
1 免疫系の疾患の病態と検査・治療	6	1 アナフィラキシー 2 自己免疫疾患とその機序 1) 膠原病の主要症状と疾患との関連 (1) 全身症状: 発熱・倦怠感 (2) 関節痛・関節炎 (3) レイノー現象 (4) 皮膚粘膜症状 (5) 筋痛・筋力低下・筋炎 (6) 腎炎 (7) 血管炎 2) 膠原病の検査・診断 3) 膠原病の治療 3 全身性エリテマトーデス 1) 病態生理 2) 症状 3) 診断・治療 4 関節リウマチ 1) 病態生理 2) 症状 3) 診断・治療 5 シェーングレン症候群 1) 病態生理 2) 症状 3) 診断・治療 6 強皮症 7 多発性筋炎・皮膚筋炎 8 パーチエット病	
2 生殖器の疾患の病態と検査・治療	8	1 男性生殖器の障害 1) 男性生殖機能障害 2) 男性不妊症 2 女性生殖器の障害 1) 主な診察・検査 (1) 内診 (2) 陰鏡診 (3) 細胞診 (4) 内視鏡検査 (5) 画像検査: マンモグラフィ 2) 膣炎 (1) 病態生理 (2) 症状 (3) 診断・治療 3) 子宮筋腫 (1) 病態生理 (2) 症状 (3) 診断・治療 4) 子宮内膜症 (1) 病態生理 (2) 症状 (3) 診断・治療 5) 子宮がん(子宮頸がん・子宮体がん) (1) 病態生理 (2) 症状 (3) 診断・治療 6) 卵巣がん (1) 病態生理 (2) 症状 (3) 診断・治療	

		<p>7) 乳がん  (1) 病態生理 (2) 症状 (3) 診断・治療</p> <p>8) 性感染症(STD)  (1) 種類と各々の症状  (2) 診断と治療  (3) 感染予防と指導</p> <p>9) 月経異常と不妊症  (1) 月経異常の種類と原因  (2) 月経困難症の診断と治療  (3) 不妊症の原因と診断  (4) 不妊症の治療</p>
	1	試験
評価方法		筆記試験
テキスト		医学書院 成人看護学[11] アレルギー・膠原病・感染症 医学書院 成人看護学[9] 女性生殖器 医学書院 成人看護学[8] 腎・泌尿器
参考資料		
履修上の留意事項		予習・復習をして授業に臨むこと。
備考		

科目区分	専門基礎分野	授業科目	疾病治療論Ⅴ
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(15時間)	開講年次	2年次
<p>目的: 感覚器疾患・歯・口腔器疾患・皮膚疾患における疾患の病態とその医学的診断・治療を理解できる。</p> <p>目標: 1 感覚器疾患の原因・症状・経過および治療法を理解できる。  2 歯・口腔器疾患の原因・症状・経過および治療法を理解できる。  3 皮膚疾患の原因・症状・経過および治療法を理解できる。</p>			
授業計画			
単元	時間	内容	
1 感覚器系疾患の病態と検査・治療	8	1 目の症状と病態生理 1) 視神経機能に関連した症状 2) 視神経に関連しない症状 2 眼疾患の診断・治療 3 機能の障害 1) 屈折の異常 2) 調節の異常 3) 色覚の異常 4) 弱視 5) 眼位・眼球運動の異常 4 白内障 1) 白内障の種類と各々の原因 2) 症状・診断・治療 5 緑内障 1) 病態生理 2) 症状 3) 診断・治療 6 舌・耳鼻咽喉の主な症状とその病態生理 1) 耳に現れる症状と病態生理(難聴・耳鳴・耳閉感・眩暈・耳漏) 2) 鼻に現れる症状と病態生理(鼻閉・くしゃみ・嗅覚障害・鼻声・鼻漏・鼻出血) 3) 口腔、唾液腺、咽頭・喉頭に現れる症状と病態生理(咽頭痛・呼吸障害・嚥下障害・味覚異常・嘔声) 7 耳鼻咽喉の主な検査 8 アレルギー性鼻炎 1) 病態生理 2) 症状・診断・治療 9 メニエール病 1) 病態生理 2) 症状・診断・治療 10 喉頭癌 1) 病態生理 2) 症状・診断・治療	
2 歯・口腔の障害	2	1 歯の疾患の原因・治療・予防 1) 歯周病 2) う歯 3) 歯髄炎 4) 歯根膜炎 2 歯周疾患の原因・治療・予防 1) 歯肉炎	

		2) 歯周病
3 皮膚の障害	4	1 表在性皮膚疾患の治療 1) 湿疹 2) アトピー性皮膚炎 3) 蕁麻疹・薬疹 4) 表在性皮膚炎 2 熱傷 1) 深さと臨床所見 2) 治療・処置 3 感染症疾患の治療 1) 带状疱疹 2) 疥癬
	1	試験
評価方法		筆記試験
テキスト		医学書院 成人看護学[13] 眼 医学書院 成人看護学[14] 耳鼻咽喉 医学書院 成人看護学[12] 皮膚 医歯薬出版 新 看護学生のための歯科学
参考資料		
履修上の留意事項		予習・復習をして授業に臨むこと。
備考		

科目区分	専門基礎分野	授業科目	疾病治療論VI
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(15時間)	開講年次	2年次
目的: 子どもに起こりやすい健康障害の基礎的知識を習得する。 目標: 1 子どもの健康障害の病態・症状、検査、治療を理解できる。			
授業計画			
単元	時間	内 容	
1 子どもの健康障害と治療	14	1 子どもにみられる主な健康障害の病態・症状とその治療 1) 染色体異常をもつ子ども (1) 常染色体異常;ダウソ症候群 (2) 性染色体異常 2) 低出生体重児の疾患の症状と治療 (1) 脳室内出血 (2) 呼吸窮迫症候群 (3) 未熟児網膜症 3) 代謝・内分泌系に障害がある子ども (1) 先天性代謝異常 (2) I型糖尿病 (3) 周期性嘔吐 4) 免疫・アレルギー疾患のある子ども (1) 食物アレルギー (2) 気管支喘息 (3) アトピー性皮膚炎 5) 感染症 (1) ウィルス感染症:麻疹、水痘、流行性耳下腺炎、突発性発疹、急性胃腸炎 インフルエンザ、RSウイルス (2) 細菌感染症:百日咳、ジフテリア、結核、溶連菌 6) 呼吸器に障害がある子ども (1) 吸気性喘鳴・呼気性喘鳴 (2) 気管支炎・肺炎 7) 循環器系に障害がある子ども (1) 先天性心疾患;ファロー四徴症、心室中隔欠損症 (2) 川崎病 8) 消化器系に障害がある子ども (1) 肥厚性幽門狭窄症 (2) 先天性胆道閉鎖症 (3) ヒルシュスプルング病、鎖肛、腸重積症 (4) 鼠径ヘルニア、陰嚢水腫 9) 血液・造血器に障害がある子ども (1) 白血病(骨髄移植・幹細胞移植) (2) 血友病 (3) 血管性紫斑病 10) 腎・泌尿器系に障害がある子ども (1) ネフローゼ症候群 (2) 急性腎障害 11) 神経系に障害がある子ども (1) けいれん性疾患;てんかん、熱性けいれん (2) 脳性麻痺 (3) 癒合不全症・神経管閉鎖障害、水頭症 (4) 急性神経疾患;髄膜炎、脳炎	

		12) 運動器に障害がある子ども (1)発育性股関節形成不全(先天性股関節脱臼) (2)先天性内反足 (3)先天性筋性斜頸 (4)脊柱側弯症 (5)骨折 (6)成長痛
	1	試験
評価方法		筆記試験
テキスト		医学書院 小児看護学〔1〕 小児看護学概論・小児臨床看護総論 医学書院 小児看護学〔2〕 小児臨床看護各論
参考資料		
履修上の 留意事項		予習・復習をして授業に臨むこと。
備考		



科目区分	専門基礎分野	授業科目	疾病治療論Ⅶ
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(15時間)	開講年次	2年次
目的: 主な精神疾患・障害の基礎的知識を習得する。 目標: 1 精神疾患の病態・症状、治療法を理解できる。			
授業計画			
単元	時間	内容	
1 精神疾患・障害と検査・治療	14	1 精神疾患の分類 1) 病因論的分類 2) DSMとICDの分類 2 主な精神症状 1) 意識の障害 2) 知覚の障害 3) 思考の障害 4) 感情の障害 5) 意欲の障害 6) 自我意識の障害 7) 記憶の障害 8) 神経症状 3 診断と検査 1) 精神科的診察 2) 一般検査と画像検査 3) 心理検査 4 治療法 1) 薬物療法 2) 電気けいれん療法 3) リハビリテーション療法 4) 精神療法 5 主な精神疾患/障害の病態生理、症状、診断・治療 1) 統合失調症 2) 気分障害 3) 不安障害 4) 強迫性障害 5) 心的外傷およびストレス関連障害 6) 解離性障害 7) 身体症状症および関連症候群 8) 摂食障害 9) 睡眠覚醒障害 10) アルコール依存症 11) 薬物依存症 12) てんかん 13) 発達障害	
	1	試験	
評価方法		筆記試験	
テキスト		メヂカルフレンド社 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護	

参考資料	
履修上の 留意事項	予習・復習をして授業に臨むこと。
備考	

科目区分	専門基礎分野	授業科目	臨床検査
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(15時間)	開講年次	1年次
<p>目的: 臨床検査の意義や目的を理解し、検査データを解釈する基礎的能力を習得する。          目標: 1 主な臨床検査の概要を理解できる。          2 各種検査の基準値、臨床的意義を理解できる。</p>			
授業計画			
単元	時間	内容	
1 臨床検査の基本	2	1 臨床検査とその意義 1) 臨床検査とは (1) 臨床検査の種類;検体検査、生体検査 (2) 臨床検査の場面と目的;スクリーニング検査、基本的臨床検査、外来検査、入院検査、精密検査、遺伝子検査 2) 臨床検査結果の評価 (1) 臨床検査結果の解釈、臨床検査値の変動、測定誤差	
2 主な臨床検査	12	1 一般検査 1) 尿検査 2) 糞便検査 3) 体腔内貯留液検査 4) 脳脊髄液検査 5) 関節液検査 2 血液学的検査 1) 末梢血液検査 (1)血球検査 (2)出血・凝固検査 (3)骨髓検査 3 化学検査 1) 血清タンパク質検査 2) 血清酵素検査 3) 糖代謝検査 4) 脂質代謝検査 5) 胆汁排泄関連物質検査 6) 窒素化合物検査 7) 腎機能検査 8) 水・電解質検査 9) 血液ガス分析検査 10) 鉄代謝関連検査 4 免疫・血清学的検査 1) 炎症・感染症関連の検査 2) 自己抗体の検査 3) 腫瘍マーカー 4) 輸血に関する検査 5 内分泌学的検査 1) 各種ホルモン検査 6 病理学的検査 1) 細胞診 2) 病理組織検査 3) 剖検診断 7 生体検査 1) 生理機能検査 (1)心電図	

		(2)呼吸機能検査 (3)脳波 2)画像検査 (1)超音波検査
	1	試験
評価方法		筆記試験
テキスト		医学書院 臨床検査
参考資料		
履修上の 留意事項		予習・復習をして授業に臨むこと。
備考		

科目区分	専門基礎分野	授業科目	薬理学
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(30時間)	開講年次	1年次
<p>目的: 効果的で安全な与薬のための基礎的知識として、薬物の意義および薬理作用や影響、薬物の管理法を理解する。</p> <p>目標: 1 薬物療法を安全に行うための薬理学の基礎と薬物の管理法を理解できる。 2 各系統に作用する代表的な薬物の作用機序および作用・副作用について理解できる。</p>			
授業計画			
単元	時間	内容	
1 薬理学の基礎	6	1 薬物療法の概念と定義 2 薬物の人体への影響 1) 投与方法と体内動態 2) 年齢に応じた作用機序 3) 吸収・代謝・排泄 4) 作用と副作用 5) 依存と耐性 6) 薬物相互作用 7) 警告と禁忌 3 薬物の管理法 1) 薬事法 2) 薬物の保存と管理(毒薬、劇薬、麻薬、覚せい剤、輸血、向精神薬)	
2 病因に作用する薬物とその特徴	8	1 抗感染症薬 1) 感染症治療に関する基礎事項 2) 抗菌薬 3) 特殊な感染症の治療薬 4) 感染症の治療における問題点 2 抗がん薬 1) がん治療に関する基礎事項 2) 抗がん薬 3 免疫治療薬 1) 免疫反応のしくみ 2) 免疫抑制薬 3) 免疫増強薬 4) 予防接種薬 4 抗アレルギー薬・抗炎症薬 1) 抗ヒスタミン薬と抗アレルギー薬 2) 炎症と抗炎症薬 3) 関節リウマチ治療薬 4) 痛風治療薬 5 末梢での神経活動に作用する薬物 1) 神経による情報伝達 2) 自律神経系と薬の作用 3) 交感神経作用薬 4) 副交感神経作用薬 5) 筋弛緩薬・局所麻酔薬	
3 各系統に作用する薬物とその特徴	15	1 中枢神経系に作用する薬物 1) 中枢神経系のはたらきと薬物 2) 全身麻酔薬 3) 麻薬性鎮痛薬 4) 非麻薬性合成鎮痛薬 5) 消炎鎮痛薬	

		6) 向精神薬 (1) 催眠薬 (2) 抗不安薬 (3) 抗精神病薬 (4) 抗うつ薬 (5) パーキンソン症候群治療薬 (6) 抗てんかん薬 2 心臓・血管系に作用する薬物 1) 抗高血圧薬 2) 狭心症治療薬 3) うっ血性心不全治療薬 4) 抗不整脈薬 5) 利尿薬 6) 高脂血症治療薬 7) 血液に作用する薬物 3 呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物 1) 呼吸器系に作用する薬物 2) 消化器系に作用する薬物 3) 生殖器系に作用する薬物 4 血糖降下剤 5 物質代謝に作用する薬物 1) ホルモンおよびホルモン拮抗薬 2) 治療薬としてのビタミン 6 皮膚科用薬・眼科用薬 1) 皮膚に使用する薬物 2) 眼科外用薬 7 救急の際に使用されている薬物 1) 救急蘇生時に用いられる薬物 2) 救急・急変時の症候に対する薬物 3) 急性中毒に対する薬物治療 8 漢方薬 9 消毒薬 1) 消毒薬の種類と応用 10 輸液剤・輸血剤 1) 輸液 (1) 輸液の種類と適応 2) 輸血 (1) 輸血の種類と適応
	1	試験
評価方法		筆記試験
テキスト		メディカ出版 ナーシンググラフィカ 疾病の成り立ち② 臨床薬理学 第7版
参考資料		
履修上の留意事項		予習・復習をして授業に臨むこと。
備考		

科目区分	専門基礎分野	授業科目	微生物学
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(30 時間)	開講年次	1年次
目的: 微生物の特徴、および主な病原微生物を理解し、感染とその防御について理解する。 目標: 1 微生物の種類と性質を理解できる。 2 感染の成立とその防御について理解できる。 3 おもな病原微生物の特徴を理解できる。			
授業計画			
単元	時間	内 容	
1 微生物の基礎	6	1 微生物と微生物学 1) 微生物の性質 2) 微生物と人間 (1) 生態系における微生物 (2) 微生物と人間の生活 2 微生物の種類とその性質 1) 細菌 (1) 細菌の形態と特徴 (2) 培養環境と栄養 (3) 細菌の遺伝 (4) 細菌の分類 (5) 常在細菌叢 2) 真菌 (1) 真菌の形態と特徴 (2) 真菌の増殖 (3) 真菌の分類 3) 原虫 (1) 原虫の特徴と基本構造 (2) 病原原虫の種類 (3) 原虫の感染 4) ウイルス (1) ウイルスの特徴 (2) ウイルスの構造と各部分の機能 (3) ウイルスの増殖 (4) ウイルスの分類 (5) バクテリオファージ	
2 感染とその防御	8	1 感染と感染症 1) 微生物感染の機構 2) 感染の成立・発症・治癒まで 3) 細菌感染の機構 4) 真菌感染の機構 5) ウイルス感染の機構 2 感染に対する生体防御機構 1) 自然免疫のしくみ 2) 獲得免疫のしくみ 3) 粘膜免疫のしくみ 3 感染源・感染経路からみた感染症 4 感染症の予防 5 感染症の検査と診断 6 感染症の治療 1) 各種の化学療法薬	

		7 薬剤耐性菌 8 院内感染症
3 おもな病原微生物	15	1 病原細菌と細菌感染症 1) グラム陽性球菌 2) グラム陰性好気性桿菌 3) 抗酸菌と放線菌類 4) 嫌気性菌 5) スピロヘータ 6) マイコプラズマ 7) リケッチア目 8) クラミジア科 2 病原真菌と真菌感染症 1) 深在性真菌症をおこす真菌 2) 深部皮膚真菌症をおこす真菌 3) 表在性真菌症をおこす真菌 3 病原原虫と原虫感染症 4 おもなウイルスとウイルス感染症 1) DNAウイルス (1) ヘルペスウイルス (2) EBウイルス (3) ヒトヘルペスウイルス 2) RNAウイルス (1) ムンプスウイルス (2) 麻疹ウイルス (3) パラインフルエンザウイルス (4) RS ウイルス (5) ポリオウイルス (6) エンテロウイルス (7) 風疹ウイルス (8) 日本脳炎ウイルス (9) ウェストナイルウイルス (10) C型肝炎ウイルス (11) SARSコロナウイルス (12) ノロウイルス (13) ラッサウイルス (14) 肝炎ウイルス (15) プリオン(クロイツフェルト・ヤコブ病)
	1	試験
評価方法		筆記試験
テキスト		医学書院 疾病の成り立ちと回復の促進[4] 微生物学
参考資料		
履修上の留意事項		予習・復習をして授業に臨むこと。
備考		



科目区分	専門基礎分野	授業科目	栄養学
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(30時間)	開講年次	1年次
<p>目的: 人間が健康を保持・増進、回復するために必要な栄養の基礎知識を理解する。</p> <p>目標: 1 健康の保持・増進に必要な栄養素の種類とはたらき、栄養の仕組みについて理解できる。  2 ライフステージに沿った栄養について理解できる。  3 健康の維持・増進、回復に必要な栄養について理解できる。  4 ヘルスプロモーションを重視した「食」の援助における看護師の役割を理解できる。</p>			
授業計画			
単元	時間	内容	
1 生命維持・健康保持に必要な栄養の基礎知識	10	1 栄養とは 1) 栄養の意義 2) 文化と栄養 2 医療と栄養 1) 食事療法の意義 2) 食事療法の進歩と医療制度 3) 栄養管理における看護師の役割 4) ニュートリションサポートチーム 3 栄養状態の評価 4 栄養素の種類と働き 1) 糖質 2) 脂質 3) タンパク質 4) ビタミン 5) ミネラル 6) 食物繊維 7) 水 5 栄養素の消化・吸収 1) 栄養素の消化 2) 栄養素の吸収 3) 栄養素の体内運搬 6 栄養素の体内代謝 1) 肝臓のはたらき 2) 血糖 3) 血漿脂質 4) 血漿のアミノ酸・タンパク質 5) 代謝の調節(内部環境の調節) 6) 代謝産物の排せ 7 栄養ケア・マネジメント 1) 栄養アセスメント 2) 栄養ケア計画 3) 評価	
2 健康づくりと食生活	4	1 21世紀における国民健康づくり運動(健康日本21)における栄養 1) 食生活の変遷と問題点 2) 食生活指針 3) 食事摂取基準 2 食の安全性と表示 (1) 食品衛生対策 (2) 食品表示	

3 ライフステージと栄養	4	1 ライフステージの各期における栄養の特徴 1) 乳幼児期 2) 学童期 3) 成人期 4) 妊娠期・授乳期 5) 更年期 6) 高齢期
4 健康障害と食事療法の実際	11	1 療養生活と栄養 1) 治療による回復を促すための食事と栄養管理 2) 栄養成分別コントロール食 3) 嚥下障害のある人のための食事 4) 経口摂取できないための人の食事 5) 疾患別食事療法の実際 (1) 循環器疾患患者の食事療法 (2) 消化器疾患患者の食事療法 (3) 栄養・代謝疾患患者の食事療法 (4) 腎臓疾患患者の食事療法 (5) 血液疾患患者の食事療法 6) 食習慣をつくる健康教育
	1	試験
評価方法	筆記試験	
テキスト	医歯薬出版 看護栄養学 第5版 女子栄養大学出版部 栄養素の通になる 第5版	
参考資料		
履修上の留意事項	予習・復習をして授業に臨むこと。	
備考		